

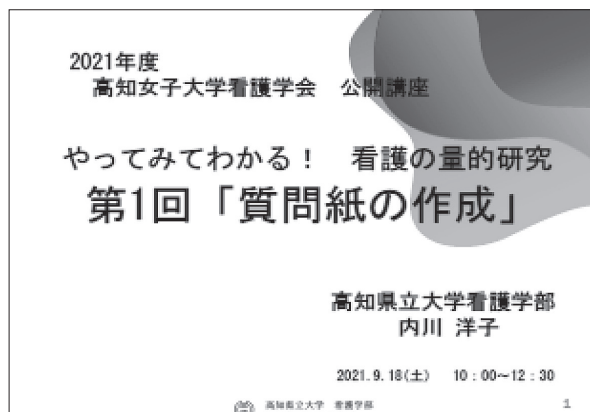
## 令和3年度 公開講座報告

### 「やってみてわかる！看護の質的研究」

### 「やってみてわかる！看護の量的研究」

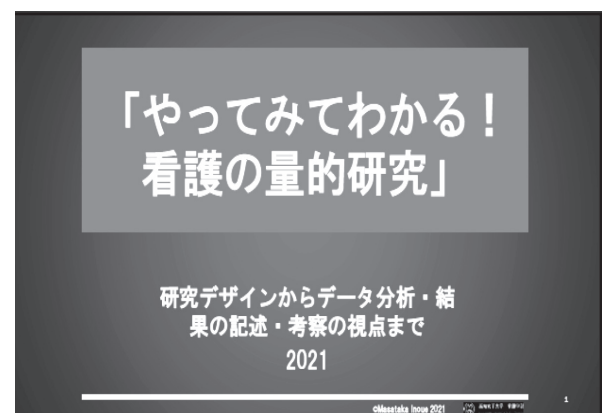
令和3年度の公開講座は、高知県立大学と共催し、令和3年9月17日（土）に第1回と第2回「やってみてわかる！看護の量的研究」を、令和3年9月25日（土）に第3回と第4回「やってみてわかる！看護の質的研究」をオンラインにて開催しました。新型コロナウイルス感染症による影響により、昨年度は中止、そして今年度も対面での開催とはなりませんでしたが、県内外から看護師や助産師、看護教員、大学院学生など、のべ92名が参加してくださいました。

第1回は、量的研究の「質問紙の作成」について、講師 内川洋子先生（高知県立大学准教授）で開催いたしました。参加者は21名でした。まずはオンラインでの双方向授業となるようWeb



上で活用するTOOLの使用法を練習した後、本題に入りました。講義では、量的研究におけるテーマ・目的・方法の選択とそれらの検討や、質問紙の作成について説明された後、質問紙作成のポイントやプロセスを示しながら活用できる参考文献の紹介をささみ、講義が進みました。参加者からは、「質問紙の作成に当たっての配慮すべき点や、尺度における程度表現の参考文献なども学ぶ事ができ、今後に役立てたい」「研究の考え方、基礎を学べたので、研究にかかると自信になった」などの感想が寄せられました。

第2回は、量的研究の「データ分析の進め方の実際」について、講師 井上正隆先生（高知県立大学講師）で開催いたしました。参加者は24名でした。研究の関心事によって何を明らか




にしたいかのイメージをもって検定方法を選択することや、研究目的に応じたりサーチクエスチョンの立て方と変数の操作化について押さえた後、結果の読み取りについて模擬データで操作方法を実演しながら分析方法の講義へと進み、講師の分析手法の実際を参加者も見学して具体的なイメージを膨らませました。参加者からは、「統計の読み方が簡潔明瞭でわかりやすかった」「分析方法はやってみないと分からない部分もあり、丁寧に説明してもらったが難しかった」「用語や方法が少し理解出来た」「目からウロコが落ちるようにわかりやすい視点で教えていただき、とても良かった」などの意見が寄せられました。

第3回は、質的研究の「インタビューガイドの作成とインタビューの実際」について、講師 高谷恭子先生（高知県立大学准教授）で開催いたしました。参加者は21名でした。看護における質的研究の特徴や研究の問いの立て方、研究枠組みの作成という研究計画の立案に必要なポイントについて具体例を示しながら講義してい


高知女子大学看護学会公開講座

やってみてわかる！  
看護の質的研究

第1回  
インタビューガイドの作成とインタビューの実際



2021.09.25  
高知県立大学看護学部  
高谷恭子



ただきました。また、後半はインタビューガイドの作成やインタビュー方法について、参加者間のグループワークで意見を交換し合い、学びを深めていきました。参加者からは「グループワークで実際にインタビューをうける経験をして、受ける立場の気持ちも分かった」「インタビューの場面を見て、インタビューガイドを実際に作成することの難しさを知り、もっと深く学びたいと思った」「今までの研究の取り組みの復習をしながら理解できていなかったところがやっと理解できた」などの感想が寄せられました。


第4回は、質的研究の「インタビューデータの分析」について、講師 池添志乃先生（高知県立大学教授）で開催いたしました。参加者は

高知女子大学看護学会公開講座

やってみてわかる！  
看護の質的研究

資料2

第2回 インタビューデータの分析



2021.9.25  
高知県立大学看護学部  
池添志乃

25名でした。看護の質的研究のデータと対話を繰り返し、自問しながら現象の見方を深化させていく具体的な分析方法について講義が進められました。その後は、グループワークでの実際のインタビューデータを用いた語りの意味を検討とコード化に取り組みました。最後に講師が

らの分析したストーリーラインの紹介では、参加者がそのストーリーラインに引き込まれ、質的研究の醍醐味を体験できる貴重な機会にもなりました。今回はWeb上でのグループワークとなりましたが、終始積極的な検討や、意見交換ができていました。参加者からは、「実際に生データからコードをあげカテゴリー化へ進めていくことが理解できた」「実際の分析過程を練習出来てとても良い学びになった」「これから職場の研究でデータ分析に取りかかるため参考になった」などの多くの感想とともに、「時間がたりないため1日かけてやって欲しい」などの意見も寄せられました。

令和3年度の公開講座は、昨年度の開催中止をはさんでオンラインでの開催となりましたが、多くの皆様にご参加いただきました。オンライン開催については「Webで反応を伝えにくい中でも、双方向で講義をしていただきとても理解しやすかった」「受講者の反応を見ながら講義を進めてもらいわかりやすかった」「Web講義でもコメントを活用して参加できたと実感した」というWebを通じて講師と参加者間で交流をもちながら参加できたという多くの感想をいただきました。とくに対面での講座では参加が叶わない遠方からのご参加もあり、本公開講座のニーズと広がりを実感しました。実施後のアンケート評価では、回答のあった方のうち約94%の方が、「満足～とても満足」と答えていました。公



開講座で研究方法をテーマに取り組み始めて数年が経過しています。しかし、2018年度、2019年度と参加者が増加しており、研究方法を具体的に学びたいというニーズの高さを痛感しております。今後も、ご参加の皆様からのアンケー

トなどを参考にしながら、臨床や教育の場で必要とされる公開講座を提供していかれたらと考え

ております。ご参加の皆様、また、講師の皆様、ご参加とご協力をありがとうございました。